

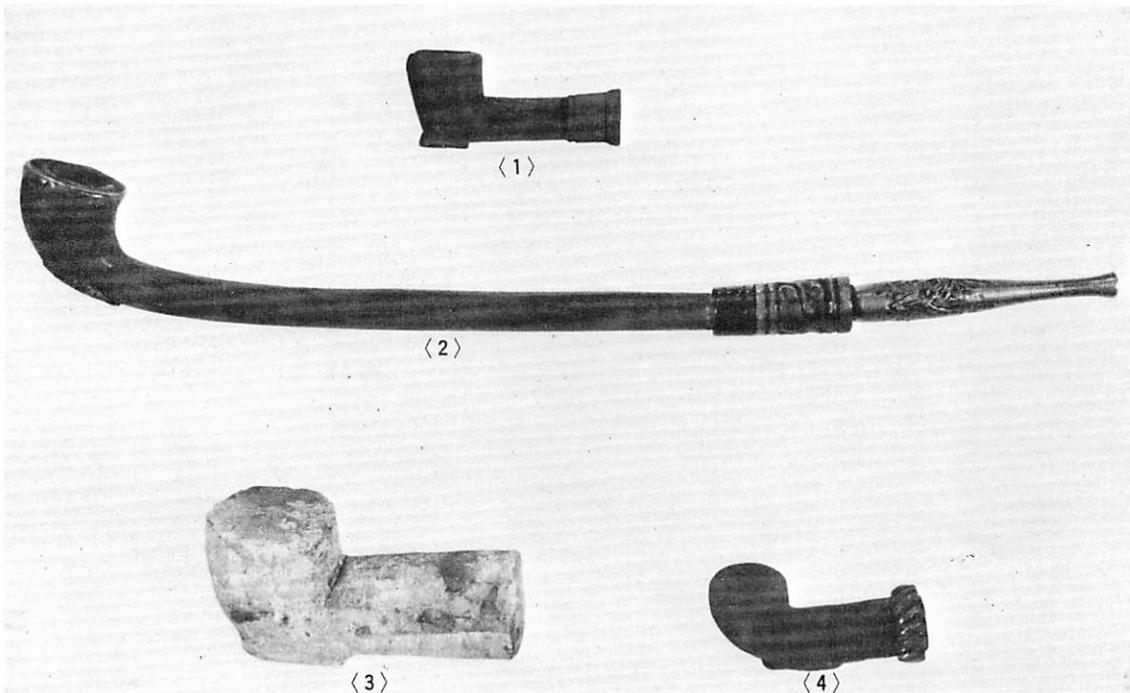
## アイヌの喫煙用具 (その2)

煙管はアイヌ語でキセリ [Kiseri] という。我国のキセルはKhsier というカンボジア語で「管」の意味とも又、スペイン語のキイセル—珪草土のことで古代スペインでは煙管は珪草土で作ったのでこの名が起ったともいわれる。

今回の写真は樺太アイヌの石で作ったスマキセリ [Suma-Kiseri] 石煙管である。樺太・北海道の石器時代の貝塚

や墳墓からも出土するが樺太では土俗品中にも残されている。この雁首の原料は灰色を呈する極めて軟かい石質のものでマキリ (小刀) で削って作る。この原石は樺太西海岸のトウフツの川口で産するものが最良のものといわれる。

雁首の大きさはおよそ5~9cm迄のもので日本の銅真鍮の雁首の模造品である。



〈1〉〈3〉〈4〉 石製雁首 (タライカ採集)、〈2〉 木製キセル (ニイトイ採集)

— アイヌの生活用具コレクション —

## 研究と資料

### 錦絵にみる明治維新雑考

近代日本の開幕ともいべき明治元年は、あらゆる分野に大変革をもたらした年でもあり、錦絵界もこうした世相を敏感に反応していった。

次々と派生する事件の真相を、絵画で諷刺したものや、幼稚ではあるが、時局報道の記事が一般に持て映され、錦絵は伝統ある芸術性を失いつつも、原始新聞の役割を担い、官府の干渉圧迫にも屈することなく、明治維新の騒擾を往事の有名な事件に仮託し、暗示的、諷刺的な絵として発売されたものが多い。

例えば、猛齋芳虎画「大阪落城大戦図」は、元和元年(1615)大阪夏の陣に、鎧兜に身を固めた木村長門守、後藤又兵衛、塙田右衛門の三勇士の奮戦によって鳥羽伏見に大勝した官軍側諸隊の大阪城一番乗りを擬えたものである。

何の変哲もないこの合戦図が、戊辰戦争を諷刺したものであるという極め手は、画面の中央に唯一本の「富士山」と書かれた旗差物が見えるためである。

徳川慶喜が大阪城を脱出後、軍艦頭榎本釜次郎が、城内金蔵に保管されていた18万両を運び出し、江戸へ輸送した時の軍艦が「富士山」(1,000トン)である。やがてこの金が、榎本等の蝦夷政権樹立の軍資金に使われたといわれるが、幕府末路のこの壮挙は、当時一般に流布されていたものとみえ、絵師もまた、厳しい検閲の眼を逃れる手段として、旗差物一本を書き添え、大阪城の最後を知らしめようとしたものであろう。

この絵は11月再版されたが、幾分取り締まりが緩和されたためか、「富士山」の旗差物は左隅に押遣られ、替って小具足の雑兵が軍服を着した官兵に近い姿に描き替えられて

いる。

これと対照的なのが上方絵で、大きさに官軍側の大勝を報じているのは地理的關係もあるが、江戸とは別な人情の機微が窺い知られて面白い。

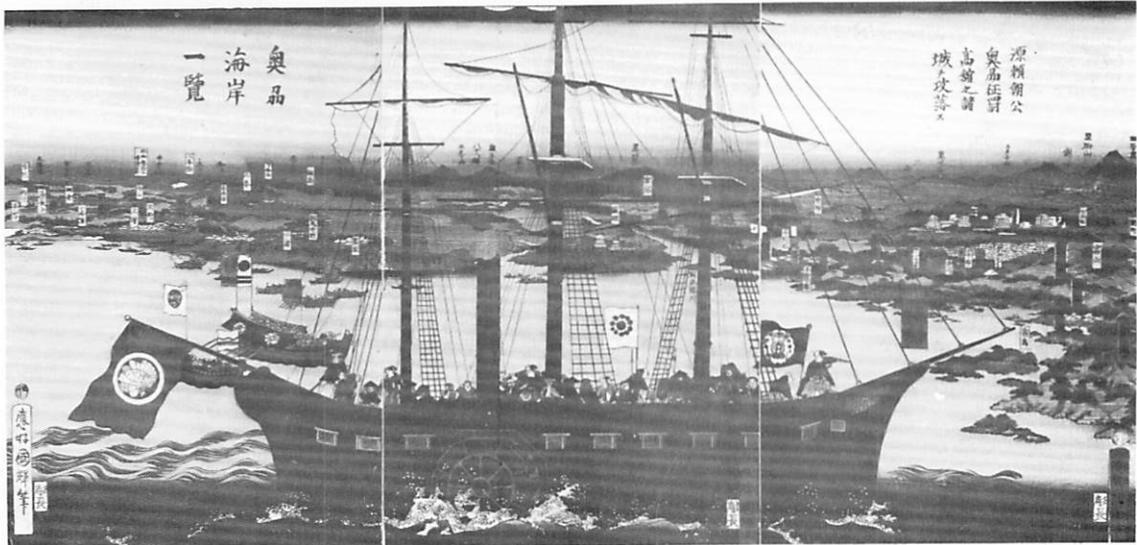
大阪城から旧幕臣が撤退した後、城は大爆発と同時に火災を發した1月9日の情景を描いた上方ものに「城中大火図」がある。

この爆発音は御一新の「ドン」と呼ばれ、時代の転換を告げる音と思われたが、反対に戦禍は拡大し、関東から奥羽、更に蝦夷地におよぶ内乱となった。中でも会津若松の戦闘は激しく、7月、一躍斉国輝の描いた擬古画は群雄割拠の戦国期に伊達政宗に攻め亡ぼされた会津の守将芦名氏にみたてたもので、「天正16年藤原重宗芦名盛隆ノ本城ヲ攻ル」と題して売出されたが、9月再版の時は、既に会津は征討軍に降った後だったので、同一図柄ながら、「奥会津大合戦芦名盛隆敗走遂ニ降伏平定之図」と書き改められている。

この頃、榎本釜次郎は徳川家に対する新政府の処置を不満として、8隻の艦船を率い、品川沖を脱帆した。その行動が具体的にどう発展するのか、予測困難の俤、国輝特異の想像力を生かし、これを頼朝の奥羽征伐に擬え「源頼朝公〔奥羽征討高館ノ諸城ヲ攻落ス〕」と題し脱走直後の8月に発売している。

遠景に奥羽の海岸を地名入りで描き、波を切って進む外輪船上の武士の動きにも迫力があり、心憎い迄に細心の注意が払われた傑作である。この絵も再版を重ね、同一図柄ながら、揚羽蝶(頼朝が石橋山に兵を挙げた時の旗印)の旗が最後は⊕の薩摩藩の紋所に書き替えられ、西南戦争にも再び発売されている。

然し、錦絵はあくまでも絵師の想像により気配に描かれた安価な工芸品であり、強力な商業組織の中で、大衆に迎合して発売されたものであるだけに、真憑性に欠ける点も



慎重に考えなければならないが、一枚の絵も詳細に見れば、その描写に多くの苦心と注意が払われていることを発見し感動すら覚える。

開港場として外国と接触の激しかった長崎・横浜は土地柄を反映して、エキゾチックな雰囲気を持った長崎絵・横浜絵が描かれた。

また、商業交通の中心となった城下町でも、地方的錦絵

が製作されているが、同じ頃、開港場となった箱館にはみるべきものが極めて少い。ただ、箱館戦争の勃発で、大衆の関心が一斉に蝦夷地に向けられ、箱館は一躍注目を浴び戦争絵が量産され、今日迄残されたことは、蝦夷地騒擾のお陰であると仮定出来るならば、錦絵の上では榎本に感謝してこの項を終る。

〈五稜郭分館庶務係長：西田祐一〉

## 市立函館博物館沿革史 (その6)

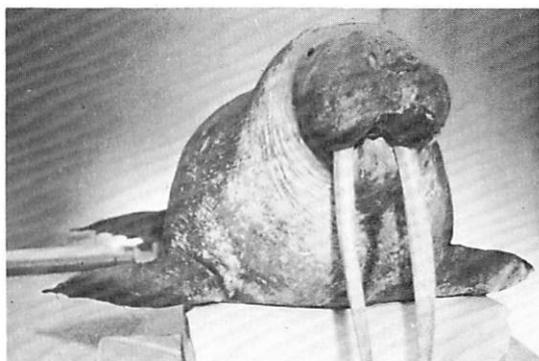
〈開拓使東京出張所内仮博物館〉(5)

### セイウチ

『カイゾウトイフモノ、カヤベコウノトドホッケヨリトリエタリ。カタチ、ラヲキサウシノゴトシ、ナガキキバ、ニホンアリ。メヅラシキモノナレバ、ハクブツカンエ、イダスタメ、ゲンブマルニテオクルツモリ』

以上は明治10年1月31日、午後3時25分開拓使函館支庁の民事課より、東京芝公園内の開拓使東京出張所内の博物館に宛てた電信の写しであり、北海道行政資料室の開拓使関係文書に記載されている。この海象とは現在当博物館に展示されている「セイウチ」の事であり、ゲンブマルとは開拓使所有の汽船玄武丸(明治6年5月、米国より18万円で購入した644トンの鉄船で、明治8年一時海軍省の所属になったこともあるがその後開拓使の所属船となった)で定期的に函館・横浜間を運航していた。

函館新聞の発刊が明治11年なので、この「セイウチ」について函館に於ける一般の反響は知り得ないが幸いに市立函館図書館に保存されている古い讀賣新聞にこの記載があるので紹介する。



### こどもの雪まつり

冬の日を家族そろって楽しみましょう。

日時：昭和50年1月25・26日

会場：函館公園・博物館

催物：おはなし会・雪像作成会・スケッチ会

### ① 讀賣新聞・633号・明治10年3月3日付

今年1月28日頃、函館近海トドホッケという所で、小谷金八という猟師がふと村内海岸の岩の上を見ると恐ろしい獣がいた。さてあれは先日から恵山鼻より尻岸の沖へ時々頭をあげた獣に違ひあるまいとて、鉄砲を一発はなすと驚いて3~4尺も飛び上ったところ又一発はなすと恐ろしい声をたて雷鳴の様に響き、その声で村のものが大声をかけ出し又々鉄砲を凡そ20発もはなして漸く打ちとめた。

よくよく見ると身丈は1丈8・9尺、頭は四角で1尺四方ぐらい、耳は小さく、口は8~9寸もあり、歯の長さは2尺ぐらい、目方は380貫程あって、色は白茶で鼻や面の廻り又尾などが鼠色で、兼て北海道の島々にいる海豹の類であろうと云い、此獣は函館の開拓支庁へご覧に入れ玄武丸に乗せて東京へ廻されました。

### ② 讀賣新聞・672号・明治10年4月19日付

先月3日(3月3日)の新聞に出た北海道假法華の近所で取られた獣は芝開拓使の博覧会場へ届いて陳列になりました。委しくは明日図を入れてお目にかけましょう。

### ③ 讀賣新聞・673号・明治10年4月20日付

昨日一寸出しておいた芝の開拓使博覧会場へ届いた海馬は、今年の1月10日に渡島国茅部郡假法華村の小谷金蔵が、同所より尾札部村へ船客を乗せていった、その客が今古部で妙な獣を見たと言われ、帰りがけに気を付けて見ると成る程妙な獣があり、金蔵の伴倉吉が見ると見られない大きな獣ゆえ、夫から鉄砲の用意をし、モリをも支度し千辛万苦の思いで、助け舟をも乞い、人も集めて漸く打ちとめ、その筋へ訴え出た。見分させると海馬にて全体は<sup>カネジツ</sup>曲尺で1丈1尺・前足のつけ根の胴の周囲は9尺9寸、眼は堅9分横1寸2分、牙の長さは1尺8寸廻り7寸、鬚の長いのは凡そ9寸、前足の長さ2尺4寸廻りは2尺1寸、後足は長さ2尺6寸5分廻りは1尺9寸、前足指先の幅は1尺、後足指先の幅は1尺8寸5分、全体の目方203貫あり剥装にして廻しましたが、土地の人人も是までトント見た事のない獣であります。

以上がこのセイウチについての記録であるが月日、人名、寸法等に差がある。この点について今回は開拓使函館支庁よりの正式な報告書によって述べる予定である。

〈学芸係長 姫野英夫〉

## 今年度の科学教室から

今年度の科学教室は、「昆虫」と「天体」が行なわれしました。

この科学教室は、市内の小学校高学年の生徒の皆さんであればだれでも参加できますが、今年度は特に亀田市と合併したため参加生徒数が増加し、定員を45名に限り、申込方法も電話による先着順となりました。

さて「昆虫」は野外観察会を中心に、自然にじかに親しみながら学ぶことにしていますが、6月の滝ノ沢での観察会は雨天のため残念ながら中止されました。8月には、駒ヶ岳山麓の赤井川で観察会が行なわれました。夏休み期間中のせいもあって多数の生徒が参加し77名がクワガタムシ等の甲虫類を追いかけ、楽しい一日を過ごしました。

野外観察といっても、子供達の夢は採集にありますから、必要以上の昆虫はとらないこと、メスはなるべくとらない

こと、はねのいたんだものは逃がしてやること、草や木を大切にすること、以上のことを守って最少限の採集をしています。

しかし、赤井川の地も、別荘地造成等で自然はみるみるうちに破壊され、今後は採集は勿論、観察も思うようにできない状態になってきています。

ただ、こうした自然破壊が進むなかで、科学教室の活動と歩みをともしてきた「函館昆虫同好会」の人々の手によって『北海道南部の蝶』という渡島半島一帯の昆虫相を記録した報告書が出されたことは今年度の明るいニュースと言えます。

「天体」は、6月に函館空港にある「プラネタリウム」の見学会を行なって、天体に関する基礎的知識をやしなってもらい、それに春・夏・秋と各季節ごとの星座観測会、「七夕観測会」「月の観測会」を行なっています。

いずれも夜間に行かない、実際に天体望遠鏡を使った観察につとめています。

講師には、科学教室開設以来ご協力くださっている津川軍次郎先生があたりられています。

このように「昆虫野外観察会」も「天体観測会」も、ともに自然に直接親しみ、すこしでも科学する心を育てようとするものです。

今年度の科学教室は、すでに終了しましたが、これからも広く生徒の皆さんに継続して参加いただけるようにしていきたいと思っています。

〈学芸員：柴田幸生〉

## 博物館日誌抄 (48.9.1~48.10.24)

- 48.9.8 市民講座(生態)講師宗像英雄氏(本館)
- 9 市民講座(考古)講師金田功氏(本館)
- 9 全国都市立高等学校長会長土屋昌久氏他3名館内見学(本館)
- 11 東京都荒川区会議員 沢向邦治氏他16名館内見学(本館、資料館)
- 11 室蘭市婦人学級47名館内見学(本館)
- 22 松野主事が交通局から博物館に転勤
- 24 北海道工業大学教授遠藤明久氏来館(資料館)
- 10.3 早稲田大学教授木村建一氏来館(資料館)
- 6 市民講座(生態)講師宗像英雄氏(本館)
- 6 通産省技官大山桂氏が高川コレクション見学のため来館(本館)
- 7 木古内町学札刈の老人長生会35名見学(本館)
- 7 函館古銭会会員12名が古銭見学のため来館(本館)
- 13 科学教室(天体、火星観測)
- 24 横浜市議会議員一行5名館内見学(本館)

## 入館者統計

昭和49年度常設展示 (49.4.1~49.9.30)

| 月別 | 館別    | 本館    |       |        | 分館     |        |        | 郷土資料館 |       |        | 総計     |
|----|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|
|    |       | 個人    | 団体    | 計      | 個人     | 団体     | 計      | 個人    | 団体    | 計      |        |
| 4  | 大人    | 313   |       | 313    | 1,869  | 46     | 1,915  | 148   | 60    | 208    | 2,436  |
|    | 小人    | 227   |       | 227    | 513    | 105    | 618    | 120   |       | 120    | 965    |
|    | 計     | 540   |       | 540    | 2,382  | 151    | 2,533  | 268   | 60    | 328    | 3,401  |
| 5  | 大人    |       |       |        | 9,690  | 828    | 10,518 | 299   | 38    | 337    | 10,855 |
|    | 小人    |       |       |        | 5,499  | 5,187  | 10,686 | 110   | 58    | 168    | 10,854 |
|    | 計     |       |       |        | 15,189 | 6,015  | 21,204 | 409   | 96    | 505    | 21,709 |
| 6  | 大人    |       |       |        | 11,185 | 4,410  | 15,595 | 369   | 91    | 460    | 16,055 |
|    | 小人    |       |       |        | 3,040  | 3,980  | 7,020  | 144   | 374   | 518    | 7,538  |
|    | 計     |       |       |        | 14,225 | 8,390  | 22,615 | 513   | 465   | 978    | 23,593 |
| 7  | 大人    | 584   | 8     | 592    | 8,872  | 4,148  | 13,020 | 366   | 19    | 385    | 13,997 |
|    | 小人    | 161   | 1,032 | 1,193  | 376    | 1,038  | 1,414  | 221   | 49    | 270    | 2,877  |
|    | 計     | 745   | 1,040 | 1,785  | 9,248  | 5,186  | 14,434 | 587   | 68    | 655    | 16,874 |
| 8  | 大人    | 1,676 | 42    | 1,718  | 1,255  | 174    | 1,429  | 662   | 73    | 735    | 3,882  |
|    | 小人    | 576   | 124   | 700    | 31     |        | 131    | 593   | 131   | 724    | 1,455  |
|    | 計     | 2,252 | 166   | 2,418  | 1,286  | 174    | 1,460  | 1,255 | 204   | 1,459  | 5,337  |
| 9  | 大人    | 500   | 31    | 531    | 10,114 | 1,309  | 11,423 | 350   | 23    | 373    | 12,327 |
|    | 小人    | 284   | 562   | 846    | 1,157  | 1,362  | 2,519  | 218   | 37    | 255    | 3,620  |
|    | 計     | 784   | 593   | 1,377  | 11,271 | 2,671  | 13,942 | 568   | 60    | 628    | 15,947 |
| 累計 | 4,321 | 1,799 | 6,120 | 53,601 | 22,587 | 76,188 | 3,600  | 953   | 4,553 | 86,861 |        |

## 特別展「錦絵にみる明治維新展」

(49.7.28~8.21 25日間)

| 区分 | 個人     | 団体    | 計      |
|----|--------|-------|--------|
| 大人 | 15,021 | 1,648 | 16,669 |
| 小人 | 2,924  | 379   | 3,303  |
| 計  | 17,945 | 2,027 | 19,972 |

このほか招待者 145名

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニップ—No.11 1974.12.1.発行  
編集・発行 市立函館博物館 (TEL 0138-23-5480)  
北海道函館市青柳町・函館公園内(〒040)